

活動報告

(2001年4月-6月)

<前ページからの続き>

本経済研究センター、広島、6月

“The Economic Roles of Nonprofit Organizations Revisited,” International Dialogue on Civil Society, Tokyo, Jun.

星野俊也助教授 “Symposium on Northeast Asian Security 2001, US Pacific Command,” (司会)東京アメリカンセンター、日本国際問題研究所共催、東京、5月

「国連平和維持活動への日本の貢献」(司会)日本国際連合学会2001年(第3回)研究大会、国際連合大学、東京、6月

「アジア太平洋地域における多国間安全保障協力の展望」(司会)第3回OSIPP政策フォーラム、OSIPP、6月

“9th Meeting of the CSCAP Working Group on Comprehensive and Cooperative Security,” (討論)Wellington, New Zealand, Apr.

「21世紀のアジアを考える」(討論)日中研究者会議第2回会合、中国現代国際関係研究所、北京、中国、6月

“Lessons Learned or Lessons Unlearned? -The US-Japan Relations in the History of Asia,” (報告)CGP/United States-Japan Foundation Conference, Washington, DC, Apr.

「「平和強制」行動の道義性・合法性・正統性—コソボ問題とNATOの武力介入を例として」(報告)国際法学会、青山学院大学、東京、5月

“Globalization and Regional Responses? Political and Cultural Aspects of Globalization,” (報告)The First ASEM Roundtable on Globalization, Seoul, May

松繁寿和助教授「賃金と査定に見られる成果主義導入の効果:企業内マイクロデータによる分析」(共著)関西労働研究会、4月

「移動・出向・生え抜き役員昇進」(共著)日本経済学会、広島修道大学、5月

永松伸吾助手「阪神・淡路大震災における贈与規模の推計」日本経済学会、広島修道大学、5月

酒井幸子 (D3)「日本におけるPRTR法の意義と課題—市民を含めたガバナンスの構築を求めて」(報告)日本公共政策学会、中央大学駿河台記念会館、6月

清末愛沙 (D3)“Feminisation of Migrant Workers: Legal Problems around Female Migrant Workers— A Case Study from Japan,” Building an Effective Network in the Service of Migrant Sex Workers in East and South East Asia, Hong Kong, China, Jun.

Virgil HAWKINS (D3)“The Other Side of the CNN Factor: The Media and Conflict,” CISS/ISA Third International Millennium Series Conference, Heidelberg, Germany, Jun.

● 学外の公的活動など ●

辻正次教授「商品開発・管理学会」常任理事「IT:階層型からネットワーク型グローバルゼーションへ、アジア経済研究所、研究会」主査「関西@CANフォーラム」主査

橋本介三教授「岡山県政オピニオン会議」委員(再任)岡山県、4月

「大阪税関行政懇談会」委員(再任)大阪税関、4月

今川拓郎助教授「内閣府経済社会総合研究所」客員研究員、4月

星野俊也助教授「日本国際連合学会」理事、6月

酒井幸子 (D3)「第1回第3次徳島市総合計画後期基本計画策定に向けての市民会議」市民委員、5月

中谷百合子 (D2)「外国人の医療制度の問題点と日本人の取り組み」ゲストスピーカー、清泉女子大学文学部市民学科、5月

谷口真由美 (D2)「財団法人世界人権問題研究センター」研究員、4月

● フィールドワーク・調査など ●

松繁寿和助教授中小企業経営者の実態に関する聞き取り調査、中小企業経営者の実態に関する調査研究会、5月

清末愛沙 (D3) 男女平等参画政策について聞き取り、東京都生活文化局女性青少年部男女平等参画室、5月

売春女性の状況に関してインタビュー、東京都女性相談センター、5月

「性の商品化」に関するアンケート、日本女性学会夏季大会、6月

女性の移民労働者の状況に関するインタビュー、6月

HELP (House in Emergency of Love and Peace) ディレクター、東京、6月

売買春問題ととりくむ会事務局長インタビュー、6月

磯元賢志 (M2) プノンペン市都市交通計画調査団(社会実験/公共バス試験運行関連調査)、JICA社会開発調査、プノンペン、カンボジア王国、6月

● 受賞、研究助成受領 ●

今川拓郎助教授(財)電気通信普及財団研究調査助成、4月

(財)電気通信普及財団特別講義開設援助、4月
永松伸吾助手「インド西部地震と被災地域経済に関する研究」(財)大阪大学後援会平成13年度研究助成金、6月

谷口真由美 (D2) 財団法人世界人権問題研究センター個人研究費受領、5月

一政祐行 (M2) 「自衛隊に期待される新たな役割〜国連待機取り決め制度と自衛隊国連平和維持活動常設待機部隊構想〜」防衛庁安全保障懸賞論文優秀賞、6月

研究プロローグ

松繁 寿和 助教授 (労働経済学)

「もう一度生まれ変わったら建築家になりたいかな」。香川県・丸亀高校時代、はじめは真剣に建築家への道を志したと言う。幼稚園からバイオリン、中学時代にはトロンボーンも吹いていたが、小さいころから彫刻や絵も好き。中学、高校の授業ではどちらかというと数学や物理に興味を持ち高2まで理系にいた。つまり、造形美術+理系=建築、となったのだそう。

しかし、父親から「建築で生きていくのは難しい」とアドバイスされ「それならばいっそのこと人間を対象にする学問を」と方向転換、最終的には法学部と経済学部にしぼったが、「法学は漢字が多く、見ため美しくない」と、1976年、大阪大学経済学部に入學した。

大学ではお金や財を扱う純粋な経済学にはあまり関心がわ



ANU 在学中の頃

かなかったのが経済学を生業とするつもりは全くなかったが、はからずも第5志望で入ったゼミで労働経済学と出会い、「自分が呼吸出来る分野がある」と思った。その後、阪大大学院の経済学研究科修士・博士課程に進み、オーストラリア国立大学(ANU)でPh.D.を取得。南山大学講師などを経て、1994年からOSIPPの助教授に。

現在、取り組んでいるテーマは、人材の育成と配置と意欲、労働市場の国際比較、起業家についてなど。特に最近、ジェンダー経済学に専心、高学歴女性の就業状況、なぜ大卒女性は仕事を続けないかという点などを研究している。

究極の夢は「瀬戸内のどこか半島の先に180度海が見える家を見て、昇る朝日、沈む夕日を見ながら一日を過ごす」生活だと語る。「一辺倒の効率を重んじる近代合理主義は息苦しいので」。仏像の半伽思惟像が好きでホームページにも張っているが、恬淡と語る雰囲気はどこか似ている。



編集・発行 「OSIPP広報委員会・ニューズレター編集部」(〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-31、大阪大学大学院 国際公共政策研究科内、TEL 06-6850-5202、OSIPPホームページ <http://www.osipp.osaka-u.ac.jp>)